

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第38週	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	668 0.14	3 0.06	3 0.06		3 0.15	2 0.10	▽				1 0.10	△					16182
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	6605 2.11	135 4.50	126 4.20	▼	69 5.31	56 4.31	▼	3 1.00	3 1.00		53 8.83	57 9.50	▲	10 1.25	10 1.25		1073
咽頭結膜熱	864 0.28	5 0.17	6 0.20	△	3 0.23	2 0.15	▽	1 0.33		▽	1 0.17	4 0.67	△				707
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3701 1.18	45 1.50	57 1.90	△	14 1.08	34 2.62	△	2 0.67	3 1.00	▲	21 3.50	15 2.50	▼	8 1.00	5 0.63	▽	3683
感染性胃腸炎	9867 3.15	75 2.50	76 2.53	▲	27 2.08	29 2.23	△	7 2.33	5 1.67	▽	25 4.17	30 5.00	▲	16 2.00	12 1.50	▽	5880
水痘	678 0.22	5 0.17	6 0.20	△	1 0.08	2 0.15	△	2 0.67	2 0.67		1 0.17		▽	1 0.13	2 0.25	△	473
手足口病	3160 1.01	23 0.77	10 0.33	▼	10 0.77	7 0.54	▼		1 0.33	△	3 0.50		▼	10 1.25	2 0.25	▽	1201
伝染性紅斑	881 0.28	8 0.27	7 0.23	▽	1 0.08		▽	1 0.33	2 0.67	△	5 0.83	3 0.50	▽	1 0.13	2 0.25	▲	356
突発性発しん	1326 0.42	16 0.53	8 0.27	▼	3 0.23	2 0.15	▽	1 0.33		▽	10 1.67	6 1.00	▽	2 0.25		▼	666
ヘルパンギーナ	3263 1.04	105 ◎3.50	71 ◎2.37	▼	18 1.38	7 0.54	▼	4 1.33	1 0.33	▼	66 ◎11.00	47 ◎7.83	▼	17 ◎2.13	16 ◎2.00	▼	2687
流行性耳下腺炎	384 0.12	1 0.03	3 0.10	△	1 0.08	1 0.08			1 0.33	△		1 0.17	△				121
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	5 0.01																
流行性角結膜炎	707 1.02	1 0.13		▼										1 0.50		▽	93
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6 0.01																20
クラミジア肺炎																	
マイコプラズマ肺炎	116 0.24	4 0.40	4 0.40		4 1.00	3 0.75	▽								1 0.33	△	114
細菌性髄膜炎	6 0.01																8
無菌性髄膜炎	22 0.05																6

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
腸管出血性大腸菌感染症	無症状病原体保有者	1				型別:O血清群不明 VT1。
レジオネラ症	患者	1				
風しん	患者	1				風しん含有ワクチン接種歴:不明。
結核	無症状病原体保有者				1	※第38週追加報告分。
侵襲性肺炎球菌感染症	患者			1		※第37週追加報告分。 肺炎球菌ワクチン接種歴:不明。

<通信欄>

※第39週に、風しんの報告がありました。(9月27日プレスリリース)

山形県では、2014年以降風しんの報告がありませんでしたが、2018年は、第34週に続き、2人目の報告となりました。

※インフルエンザの迅速キットによる型別は、A型が3件です。集団発生の報告はありません。

※トピックスで、RSウイルス感染症、風しんについて掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ						1	1					1			
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
															3
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	17	21	50	18	12	5	2					1			126
咽頭結膜熱			1	1	2	1			1						6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	1	3	2	8	8	10	5	4	6	8			57
感染性胃腸炎		6	11	8	15	8	8	4	3	1	3	8	1		76
水痘		1		1	2	1	1								6
手足口病	1	1	1	3	1	1		1				1			10
伝染性紅斑		1			1	3	1					1			7
突発性発しん		4	4												8
ヘルパンギーナ		6	19	13	15	8	3	3	4						71
流行性耳下腺炎					1		1					1			3

<平成30年8月 月報>

2018年9月26日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～8月	
	7月	8月										
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	18	18	12	13			4		2	5	149
	定点当り	1.80	1.80	3.00	3.25			2.00		0.67	1.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	3		1	1		4	2	1		61
	定点当り	0.60	0.30		0.25	1.00		2.00	1.00	0.33		
尖圭コンジローマ	報告数	4	4	2	4			1		1		27
	定点当り	0.40	0.40	0.50	1.00			0.50		0.33		
淋菌感染症	報告数	2	7		2					2	5	26
	定点当り	0.20	0.70		0.50					0.67	1.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	8	4			1	2	2		5	2	59
	定点当り	0.80	0.40			1.00	2.00	1.00		1.67	0.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	20	22	10	10		1	1	1	9	10	149
	定点当り	2.00	2.20	2.50	2.50		1.00	0.50	0.50	3.00	3.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

RSウイルス感染症 情報

RSウイルス感染症の県平均定点当たり報告数は4.20人で、過去5年間の同週と比べ、最も多くなっています。

- ・第39週 定点当たり報告数(山形県:4.20人)
- 村山:4.31人 最上:1.00人 置賜:9.50人 庄内:1.25人
- ※警報・注意報の基準値は設定されていません。

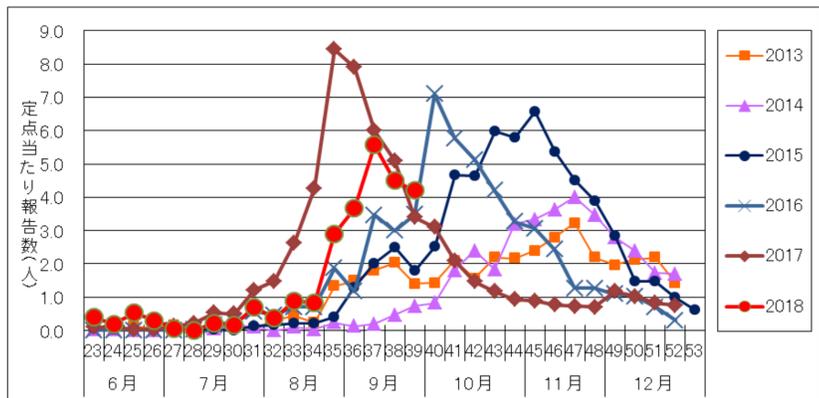
<RSウイルス感染症とは>

RSウイルス感染症は、乳児によくみられる急性呼吸器感染症です。潜伏期間は4～6日、症状は軽い風邪様の症状から肺炎まで様々です。2歳までにほぼ100%の人が感染し、生涯にわたり何度も感染と発症を繰り返します。初めて感染した場合は症状が重くなりやすく、特に新生児や生後6ヶ月以内の乳児は注意が必要です。

感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染、ウイルスがついている物を介しての接触感染などがあります。予防法としては、手洗いの励行、マスクの着用、ウイルスの付いている物の消毒が有効です。



<年別 定点当たり報告数の推移(山形県)>



風しん 情報

第39週に、村山地区で風しんの報告がありました。山形県では、2014年以降風しんの報告がありませんでしたが、2018年は、第34週に続き、2人目の報告となりました。

<風しんとは>

感染すると、14～21日(平均16～18日)後に発疹、発熱、リンパ節の腫脹などの症状が出現しますが、症状が出ないこともあります。基本的には予後良好ですが、妊娠20週ごろまでの妊婦が感染すると、胎児に先天性風疹症候群を引き起こすことがあります。

感染経路は、くしゃみ、咳のしぶきなどによる飛沫感染です。発疹等の症状の出る1週間前から、症状が消えるまで感染力が持続し、症状の出ない感染者も感染力があります。

予防にはワクチンが有効です。特に30～50代の男性は、風しんへの抵抗力が弱い人が多いので、ワクチン接種を受けましょう。

<第38週 都道府県別風しん報告状況 (国立感染症研究所HPより加工)>



<年齢・性別報告数 (全国 2018年第1～38週累計)>

